

平成23年7月13日

保護者の皆様

広島市立五日市南中学校
校長 本多 雅一
PTA会長 日野 成紀

舟入高等学校演劇公演について（お知らせ）

向夏の候 保護者の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

平素は、本校の教育活動に深いご理解とご協力を賜りありがとうございます。

さて、このたび平和学習の一環として広島市立舟入高等学校演劇部の公演を下記の要領で開催いたします。ご多用とは存じますが、保護者の皆様もご鑑賞くださいますようご案内申し上げます。

記

期日 平成23年7月21日（木） 10:00～11:00
場所 五日市南中学校 体育館
内容 （『夕風の街と人と』 太田洋子の作品より）

「おお、いべさやいべせ。天に焼かれる！原子爆弾—」

「原爆文学者大田洋子をテーマに、といってもですねえ・・・」

「いや、水爆実験？をさ、あの『ぎまをみろ』って・・・」

「うちの学校の慰霊碑の碑文が『 $E=MC^2$ 乗』となっていますよね」

「『夕風の街と人と～1953年の実態』を書くために。」

「私は広島を記憶を捨てたい。」

「うん。今、ちょうど夕風だよね。風が凪いでいる・・・」

あらすじ

原爆をテーマにした芝居に取り組もうとする演劇部の練習。演劇部員である彼らは、伝統となっているテーマのために色々と悩んでいる。「大田洋子」という作家の名前が、ある部員の口から挙がってくるが、誰も彼女のことを知らない。彼らは、彼女の描いた世界に触れていくが、・・・

《舟入高校演劇部からのメッセージ》

私たち舟入高校演劇部は、毎年、ヒロシマをテーマにした創作劇を上演しています。これまでも、原爆投下直後の広島や現代の視点から見つめたヒロシマなど様々な観点から、オーソドックスなスタイルやミュージカル仕立てなど様々な手法で、創作劇にチャレンジしてきました。

今回の『夕風の街と人と～2011』は、現代の高校生たちが「大田洋子」という作家と向き合うお話です。原爆を描いた作家というと、原民喜さんや峠三吉さんの名前はすぐに思い出されるのですが、大田洋子さんの名前はなかなか出てきません。彼女の生き様に触れて、高校生はどのようなことを感じるのだろうか、そのようなことを考えてこの劇を創りました。

※ 大田 洋子：広島市出身の小説家、被爆者

「屍の街」「夕風の街と人と～一九五三年の実態～」等の原爆を描いた作品がある。